ネットワーク会話ツール phone の機能拡張とユーザインターフェイスの改善

静岡大学工学部 システム工学科
若林研究室 5051-3021 加藤拓也

1 序論

本研究の目的は、ネットワーク会話ツール phone の機能拡張とユーザインターフェースの改善である. ソフトウェアの開発手順に従って, よりユーザが使いやすい会話ツールになるように更新する. この分野には ICQ など優れたソフトウェアがあるが, それらとは違った方向性を模索する.

2 phone について

ネットワーク会話ツール phone には, 前身コマンドとして write,talk といったものがあった. write は接続者に対して一方的に話すだけであったが, それを改良した talk も 1 人の相手としか接続できないなどといった, 会話ツールとして不備な点を多数持っていた. phone は, それらを改良し, 多人数と同時に接続して会話することができるようにしている.

しかし,phone にも不便な点があった. 以下に phone を使用して不便に感じた点について挙げる

日本語表示 phone は,write,talk 同様に日本語表示ができない. 日本語で書く場合, ローマ字で相手に伝えなくてはならなかった.

メッセージの上書き それぞれに用意されたウィンドウの一番したまでメッセージが書かれると, その後のメッセージを最上行に戻って書こうとするため, 以前のメッセージが消えてしまう

コマンド入力 ESC を押してコマンド入力モードと書き込みモードをトグル操作しているが, 特に最初はコマンドが分からなかったりして不便である

3 改良した点

以下に phone を改良した点を述べる.

日本語入力機能の追加 phone の新機能として, 日本語入力サーバ kinput2 を通して日本語入力を可能にした. それと同時に文字を 1 つずつ送るのではなく, 1 行ずつ送るように変更した.

ユーザインターフェイスの改善 ユーザインタフェースとして, まず専用のウィンドウを作り, 自分用の入力ウィンドウ, 接続者用のウィンドウ, コマンドの説明ウィンドウをそこに置く. 更に, コマンドの説明ウィンドウ以外のウィンドウにスクロールバーを付け, 来たメッセージはそれ以降残すようにした. そして, コマンドの入力であるが, ウィンドウ上のコマンドボタンをクリックすることでコマンドを入力できるようにした. 更に, マウスポインタがコマンドを指した時にコマンド説明ウィンドウにその説明を出すようにした.

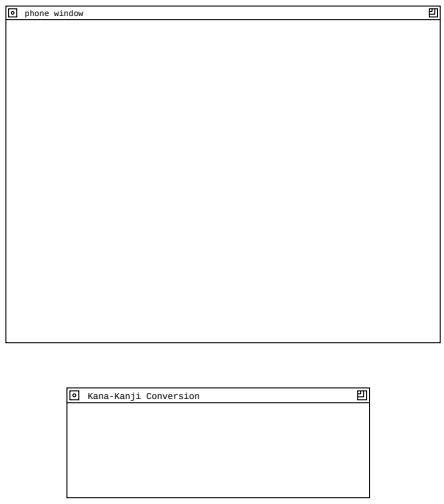

図 1: 日本語入力の図

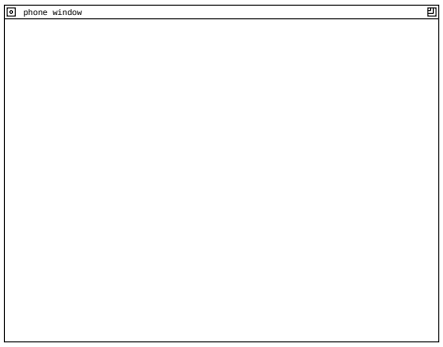

図 2: コマンド入力の図

4 まとめ

今回の研究で,phone を以下のように更新した.

- 日本語入力機能を追加.
- 過去のメッセージを残す.
- クリックでコマンドを表示し, マウスポインタをそのコマンドにあわせるとその説明を表示する

5 今後の拡張予定

今後の拡張予定として,rmap のインターフェイスを改善することを考えている. rmap とは, あるマシンにどのユーザが入っているかを確認するコマンドで, このコマンドから phone を呼び出すことができる. このコマンドのインターフェイス改善によって phone を更に使いやすいコマンドにしようと考えている.